

## 助けてくれた税金

高梁市立高梁中学校1年 中村 徠夢

「息を吸って一。止めて。」

パシャ。

「はい。楽にしてください。」

次は血液検査へ向かう。ゆっくりと動くエスカレーターに乗りながら、僕は自分の体のことを心配していた。

血液検査の後、お医者さんから、

「この骨がへこんでいますね。漏斗胸という病気です。」

と言われた。重度な場合は、へこんだ肋骨や胸骨が肺や心臓を圧迫して、機能異常につながるそう。僕は手術をすることになった。手術の日程など母が話し合っていた。その中で、手術代が百万円を超えることや、手術代とは別に部屋代がかかることなどが聞こえてきた。かなり高額なお金がかかることに驚き、申し訳ない気持ちがしてきた。

手術までに何度か、僕は病院へ通い、検査をした。内心僕は、こんなに検査ばかりしてどんどんお金がかかるんだろうかと心配していた。ところが、母は、

「高梁市は、子ども医療費を助成してくれるから本当に助かるわ。」

と明るく話しかけてきた。税金による補填で僕の医療費は0円になる。こんなありがたい制度があることを初めて知って、感謝と同時に、そのお金はどこから出ているのか不思議に思った。家に帰り父に聞いてみると、

「そのお金はみんなの税金から支払われているんだよ。」

と教えてくれた。調べてみると、医療費や年金などの社会保障費、警察や消防などの公的サービス費、教育費など、様々なことが税金でまかなわれていることが分かった。

中学生の僕にとって、税金は身近な話題とは言えない。集め方や使い方など、全く関心がなかった。しかし僕は、自分の手術のことで、名前も知らない、顔も見なかったのな人が納めた税金のおかげで、どれだけ助けられたか実感することができた。

このような体験をして社会を見てみると、税金のおかげで安心して生活できている人がたくさんいることに気付くことができた。僕の家付近には、デイサービスなどの介護を利用する人がいて、迎えの車がしょっちゅう止まっている。みんな笑顔で車から降りてくる。きっと楽しい時間を過ごすことができたのだろう。数年前の豪雨で壊れた道路はきれいになった。誰かを救う救急車の音が今日も聞こえる。

様々な場面で税金の恩恵を受けていることが分かったが、これは国民一人一人がきちんと税金を納めているからでもある。僕はまだ恩恵を受けるばかりだが、やがてはきちんと納税し、誰かの安心や笑顔に少しでも貢献できる大人になりたいと思う。